

享元年歿す。其の子二子あり。長男三郎兵衛遺知の内二千七百石賜はり、次男伴七へ五百石配分、兩家と成る也。犀川一橋は則ち今云ふ大橋にて、其の近邊とは今云ふ古寺町の地なるべし。

○眞如山三光寺

淨土宗也。由來書に云ふ。當寺開基學譽超龍にて、超龍は加州能美郡小松佛徳寺第五代目住職之處、當寺金澤に於て建立仕。二代願譽、寛永十二年八月泉野寺町に而寺屋敷四百歩拜領仕、造立仕。とあり。

○延壽山常松寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、慶長十六年山崎閑齋建立、山崎長門下屋敷之内に造營之處、寛永十二年之秋寺屋敷御用地に被召上、泉野に而先寺地歩敷之通拜領被仰付、奥村源左衛門・小塚藤右衛門承に而被打波。とあり。按するに、山崎長門下屋敷と云ふは、小立野山崎家中の地敷ともいへれど、今の傳馬町の裏なる長門町の地なるべし。養智院由來書に、正保三年犀川長門上、地町に而寺地拜領すともありて、そのかみ山崎氏の下邸此の地邊にあり

といへり。

○神應山香林寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、長岩和尚慶安四年建立、開基檀那青木五兵衛、微妙公へ被申上寺屋敷拜領、其後青木主計爲微妙公之御厚恩當寺に御影堂造立、御位牌建置、御茶湯齋米被付置。とあり。舊傳に云ふ。青木氏は采地五百石之處、家斷絶の際背公の畫像を寺へ納む。然る處背公の神殿より出火し、寺中焼亡し、其の節彼の御形堂も延焼して、舊記類悉く火災に罹りて、今何事も詳かならずとぞ。

○摩頂山國泰寺

臨濟宗法燈派西田國泰寺の末也。寺記に云ふ。當寺本山は越中國射水郡太田村國泰寺。開山は惠日聖光國師。後醍醐帝嘉曆三年創立、摩頂山國泰寺の號を賜ふ。惠日聖光國師清泉禪師は紫衣勅許之繪旨を賜はり、御直衣拜領す。金澤國泰寺は、利家卿入部以後公儀町に寺建立、本寺より兼帶。元和中本寺三十一世播庭和尚、泉野に替地賜はり堂宇再興す。とありて、其の實越中西田國泰寺の別院なり。故に山號寺

號共に同様に稱せり。

○西田國泰寺々々格

國泰寺は、臨濟宗法燈派の本寺にて、國泰寺派とも稱し、紫衣勅許の寺格なり。舊藩五世參議中將綱紀卿寺格を穿鑿し給ふにより、國泰寺より言上せし書札は温故遺文に載せたり。其の書に云ふ。

南禪寺。深紫衣、五山之上、大明派共南禪寺派共云ふ。

大德寺。同。大燈派共大德寺派共云ふ。

妙心寺。同。關山派共妙心寺派共云ふ。

永源寺。同。寂室派共永源寺派共云ふ。

國泰寺。同。法燈派共國泰寺派共云ふ。

由良派とは俗の申習にて、與國寺は法燈の開山所、由良にある故也。以前は紫衣勅願の地國泰寺同事の本寺之處、勅願出世之儀斷絶し、何時頃よりか妙心寺派の僧住持致に付、妙心寺支配に相成、只今法燈一派の本寺勅願出世之地は國泰寺而已故、法燈派共國泰寺派共云。勅願の地何も本寺は無之、國泰寺若し勅願所にて無之は、由良與國寺を本寺とも可申、國泰寺は古來勅願の地故、終に與

國寺と本末の品無之。

靈源寺。深紫衣、靈源寺派共一絲派共云ふ。

萬福寺。一代宛の紫衣、其僧に依て被下。紫衣別勅と申由。

黃檗派共隱元派共云ふ。

京五山。天龍寺淺紫衣。相國寺黃衣。建仁寺黃衣。

東福寺黃衣。萬壽寺黃衣。

鎌倉五山。建長寺黃衣。圓覺寺黃衣。壽福寺黃衣。

淨妙寺黃衣。淨智寺黃衣。

右之趣にて、法燈派勅願の本山は越中國泰寺のみにて、諸國に有之法燈派の僧出世願の節は、國泰寺より傳奏へ取次、吹舉狀指出。と記載せり。また貞享二年の由來書に、光明帝曆應二年に日本國中爲祈禱所安國寺造營之節、越中國者國泰寺有之故、安國寺創建無之。とあり。按するに、安國寺造立の事は、和漢合運圖に、曆應二年每州立安國寺と見え、無徳和尚行實にも、古山源君仁政之日。推誠護教。以謂。安國利民者。莫如佛乘。而乃令天下每州建安國寺。とあり。但し此の時越中にも造立ありけん。越中國安國寺の名、蔭涼軒季度日録に載せたり。